

We Love Tamagawa



2018.5.12

調布のすばらしい自然の一つ多摩川は子ども達にとって水に親しめる絶好の場所ですが、日頃そんな子ども達のためにある「調布水辺の楽校」や「多摩川自然情報館」のイベント。今回は残念ながら暑さと台風のためにも両方とも中止になりましたが、水辺の楽校の準備奮闘記と会の立ち上げのときのお話です。

『調布水辺の楽校』スタッフ奮闘記

2018年6月29日、平年より22日も早く関東甲信地方の梅雨明けが発表されました。この調子だと、天候も良く水量が増えることもなく実施率が上がると想定、7月28日開催予定のガサガサの案内を市内20の小学校へ配布しました。

今回のガサガサ参加申込は親子200名ほどとなり大盛況で実施の予定でした。ところが7月23日、東京で40度以上の観測史上初を記録。最高気温や児童・お年寄りの熱中症事故、プールでの事故などが多発・・・などの情報が入ってきました。危険度の高い酷暑。予報も、2週間ほどは厳しい暑さ!!とのことで、改めて実施可否を検討。

水辺の楽校の校長はじめスタッフメンバー間で、最初は熱中症対策として例年通りに・アイスキャンディー配布・冷たい飲み物・日除けの簡易テントなどで対応を考えていましたが、実施上、以下の現実がありました。

- ・多摩川の河原には全く日陰が無い。
- ・移動しながら日陰になるテントを用意はできない。
- ・児童及び同行された保護者、スタッフで200名以上。
- ・イベント会場までの交通手段は、自転車や徒歩が多数で、イベント前後でもかなり暑い中の移動になる。
- ・低学年の児童の参加が多い。

などを考慮して、実施したい気持ちの中で、24日に苦渋の「中止」の決断をし、参加者へメールで連絡しました。

ところが中止を決定した翌日には、台風の情報が入ってきました。土曜日にかけて「日本列島、関東直撃!!?」 いったいどうなっているんだ???

酷暑も台風もどちらも自然相手ではしょうがないのですが、元は人的なオゾン層の破壊等も一因になっ

ています。

日本の小学校のプールでは水温37℃!! 涼しむはずのプールが温水では水の中でも熱中症になりますね。調布市内でも、夏休みのプール開放などは、室内プールの一校を除きすべて中止になっています。

今回、自然相手のイベントの難しさを改めて感じました。今までは雨が降っていなければ、水量が増加しなければ的な考えもありましたが、「酷暑」という雨天以上の厳しい状況を目の前にしました。

参加の表明をして楽しいイベントを期待してくださった方には、大変に残念な結果でしたが、今後の水辺の楽校の運営を行うための判断としてご理解いただければと思います。

(水辺の楽校サポーター 池ノ内)



水辺の楽校は、年4回。次は11/3(祝)「多摩川クリーン作戦」本年度の最後は2019年1/19(土)「ハードウォッチング」イベントスタッフとして支援参加もお待ちしております。

水辺の楽校事務局 石川

090-1811-4894
調布市環境政策課 042-481-7086
調布水辺の楽校 Facebook

調布水辺の楽校の始まり

平成8年建設省(現国土交通省)が、河川を子どもたちの遊びや自然体験の場として活用し、推進することを目指し「水辺の楽校プロジェクト」を立ち上げ、翌年には、調布で市民主導の「水辺の楽校シンポジウム 調布1996」が開催されました。

その後調布市では、平成18年にガサガサ探検の先駆者、俳優の中本賢さんの呼び掛けで多摩川での川遊びイベントが実施され、多くの子どもたちが参加し川遊びの楽しさを体験しました。特に富士見台小学校の子ども達からは、「あの楽しいイベントをPTAでやって欲しい」との声があがり、この声がおやじの会のお父さんたちを動かしました。

調布でもぜひ水辺の楽校を作りたいと考えていた市民団体代表が市と相談、平成19年3月に、環境政策課、市民団体、校長先生、おやじの会(富士見台小)など有志が集まり、水辺の楽校設立準備会を作りました。子ども達が楽しむ事は何だろうと会議を重ね、バケツリレーによる若鮎救出作戦、ガサガサ探検、自然観察と芋煮会、ハードウォッチングなどを多摩川流域の5つの小学校の児童と保護者を対象に実施しました。

平成20年4月、水辺の楽校の前段階「子どもの水辺」に登録、翌年「調布水辺の楽校」を国交省に申請し認可されました。

現在は市内全20小学校の児童と保護者を対象に活動しています。

(水辺の楽校 前代表 杉山)

花の履歴書 50

戸部英貞 (絵・文)

ヤブガラシ(藪枯らし)
ブドウ科
(ビンボウカズラとも)



Cayratia japonica

北海道西南部から南西諸島、中国、インド、マレーシアなど東アジアから東南アジアまでの広い範囲に分布する蔓性の多年草。地下茎を伸ばして繁殖し、地上部を抜き取っても土中に残った根茎から不定芽を出して繁殖するため、一度広がってしまうと駆除が困難な草である。

初夏から小さな花をたくさん付けているが、萼片は退化しており、花弁は薄い緑色ですぐに落下してしまう。関東以北に自生するものは3倍体で結実しないが、中部以西には実を付ける2倍体が混じり、球状の液果は熟すと艶のある黒色になる。

長く伸びた巻きひげは、触れるものがあるとすぐに巻き付くので、触ると触った側に巻きつくように運動する。この巻きひげの素早い巻き付き運動はダーウィンの時代から研究されていたという。

近年東京大学大学院の研究により、ヤブガラシの巻きひげが動物の「味覚」と同じ能力を持っており、巻きひげが接触した物体を識別し、巻き付く相手を選び、同種の葉に巻きつくのを避けることが発見された。

名前からしてもあまり歓迎されない植物で、他の植物を覆い隠す様に茂り、その結果覆われた植物は枯死してしまう。そのため庭の手入れの行き届かない貧乏人の所に生い茂る。またこの植物に絡まれた家屋が貧相に見える。あるいは植物が茂ったことが原因で貧乏になってしまふ。などから和名が付けられたとされている。

子供の頃、書道の時間、ヤブガラシの巻きひげを潰して摺ると墨液が濃くなるといわれ、やってみたが、結果については定かな記憶はない。

若芽は茹でて、あく抜きすると食用になり、漢名は「烏斂苳(ウレンボ)」で、根は利尿・解毒・鎮痛などに薬効のある生薬として利用している。

成長が早く、どんな場所でも育つので、緑のカーテンとして苗が売られているが、地植えにすると後で処置に困るので、プランターを利用することを勧める。

平成30年度 雑木林ボランティア講座 第2回 7月14日(土)

「この暑さ、ハンパない」というこの日のテーマはボランティア活動を行う上で最も基本になる「安全管理」について。

森林インストラクターでありカニ山の会代表の小島圭二講師から、その重要性和想定される事故の内容、発生した時の対処の仕方などの概要が説明されました。続いて、今の季節、最も懸念される熱中症や危険昆虫・植物について個別に説明がありました。気温30度以上の屋外で作業をすれば、熱中症には必ずなる。それを軽度抑えるためにどんな準備をし対策をとるか。



倒れない、作業をすれば、熱中症には必ずなる。それを軽度抑えるためにどんな準備をし対策をとるか。ボランティア初心者だけでなく経験者でもしつかり心がけておくべき内容です。

ここまですが屋内での座学。昼食後はカニ山に移動しての作業実技です。雑木林管理作業にはいろいろな種類があります。草を刈る、木を伐る、道を作るなどなど。何をするかによって使う道具も違ってきます。また同じ道具でも使い方が違ってきます。今回の講座では、一番使用頻度が高いカマとノコギリについて、種類や使い方の



厳しい暑さでも木陰があればなんとか凌げる。シートを広げて皆でランチのひと時。

説明がありました。

そしていよいよ実技。たかがアズマネザサ刈りと侮るなかれ。厚く落葉が積もった場所に体を差し入れてのササ刈りは想像以上に大変で、暑さもあり、10分ごとに休憩を取りながらの体験となりました。ノコギリ実習でも「実はノコギリが上手くなかったということを実感しました」という声も聞かえてくる充実した内容でした。そして最後は、使った道具の手入れ方法を学び講座修了。



カマでアズマネザサを刈る



ノコギリの正しい使い方は？

「安全管理」の重要性を実感する酷暑の講座でしたが、無事終えることができました。カニ山の会をはじめご協力いただいた皆様ありがとうございました

入間・樹林の会

6月16日(土)曇り参加者9名

林内巡回後、柵の確認、三角地の下草刈りを全員で行った。イネ科の植物を刈るとジムグリが2匹、カマキリ、カナヘビ、バッタ、モリチャバネゴキブリなどがみられ、多様な生物がいることがよくわかった。三角地の下草刈りは、終えたあとの達成感を感じる。



ヤブミョウガ



ジムグリ

7月21日(土)晴れ参加者12名

全員で植生調査を行った。新たな取得用地の竹の勢いを止めることやクスガが目立つので伐採が必要ではないかとの指摘が根本さんからあった。メンバーからは、猛暑の中での緑の力を感じたとの感想があった。花はクサギ・ミスヒキ・ハエドクソウ・ヒナタイノコツチ・マンリヨウ、アジサイ。プチ違いはケヤキ・ムクノキ・エノキ、アマチャヅル・ヤブガラシ、ヤマイモ・ヘクソカズラを観察した。

(安部)



ヤブラン



植生調査



クサギ

カニ山の会

6月9日(土)晴れ参加者13名

ドングリの森(植樹エリア)を中心に刈り取り範囲と、植生を残す範囲を決めて作業を行った。ホタルブクロ自生地は、昨年の柵が残っていたためこれを継続使用し、他の草を除去した。マヤラシは昨年から少し離れたところに出てきた。その他、苗圃(びょうほ)周辺の腐食した杭の取替え。借用地(東樹林東)の草刈りと剪定は、隣地との境界、調査通路を中心に行った。

7月14日(土)晴れ参加者9名

非常に暑い日で、熱中症に気を付けながら東樹林の笹刈り、剪定を行った。午後は雑木林ボランテア講座生7名が鋸・鎌の使い方や道具の手入れ実習でカニ山を訪れた。カニ山の会員は小島講師の実習補助として協力。

実習時間は短かったが、今日の暑さの中では適当と思われた。(活動報告より)



ホタルブクロ

若葉緑地の会

6月10日(日)雨のため活動中止

7月3日(日)参加者1名
ボランテアの作業では無理と判断して、緑と公園課にお願いした第3緑地外周のアズマネザサ刈取作業に立ち合い。笹が道路を狭めていた状態が解消した。緑地入口近くの、春にノバラが出る辺りは刈らないようにしてもらった。



アズマネザサ刈取前



アズマネザサ刈取後

7月8日(日)晴れ参加者5名
前週に「たづくり」で展示した活動紹介のパネルを緑地入口に掲示。緑がますます濃くなった林床で、ヒメヒオウギスイセンの朱色が鮮やか。「青空広場」南側のシロタモの根元に大きな日陰ができるようになったので、手前の1本を伐

ることとした。第2緑地に隣接する住宅新築現場に緑地側から竹が数本突き出していたため、伐採。第2緑地を担当している若葉の森3・1会の作業日が9月初めまでなので、当会で伐採した。(大村)



パネルを掲示



シロタモ伐採



ヒメヒオウギスイセン

若葉の森3・1会

6月3日(日)晴参加者12名

初参加1名。調布市香西課長が視察と挨拶を兼ねて参加、意見交換を行う。
第1緑地では、宅地開発隣地境界と土留壁の間の堆積土砂を掻き出し、階段補修。コンポースト柵に竹囲い設置。切株溜りを竹材で整備。枯枝切除。露出樹根切除。
第2緑地では、大坂側通路のササ刈り。六別坂と緑地内通路落葉掻き。ごみ拾い。

6月29日~7月1日
たづくり南ギヤラリーで開催された環境活動交流会に当会の活動紹介パネル展示。

7月1日(日)快晴参加者9名
第1緑地で、表土流出対策・裸地緑化を実験的に3箇所で行った。①草地を延長拡大する方形枠設置、②裸地に方形枠設置し、自然草を移植、③中央通路斜面上に土留竹杭設置。その他、裸地の若木苗の保護柵設置。水溜用小池製作。六別坂落葉掻き、ごみ拾い。(NOK)



①

②

③

凸凹森の会

6月24日(日)雨天中止

7月1日(日)
たづくりにて環境活動交流会
交流力フェ、受付当番参加者6名
7月15日(日)晴れ参加者7名
夏イベント会場の草刈りを使用する竹の選別。6月の草刈りができなかったため、樹林はうつそうとしていました。
異様に巨大に育ったクスズの葉っぱ!この連日の暑さのせいでしょうか?

7月22日(日)晴れ参加者49名
恒例の流しそうめんとスイカ割り。

竹林から何本も竹を切って、運び出し、枝を落とし、割ったり切ったり削ったり。普段滅多にできない体験を、親子共々挑戦し、自分でお箸と器を作りました。

外で食べる流しそうめんの味は格別。子どもたちのよく食べること! お馴染みのスイカ割りも、単純だけど大盛り上がり。今年は参加したお父さんの棒さばきが格好良かったです。
毎年初めての参加者が多いイベントで今回も一組の親子が入会してくれました。(石原)



2018年 第10回 環境活動交流会

こんな所もあったの？

調布自然百景 Instagram フォトコンテスト

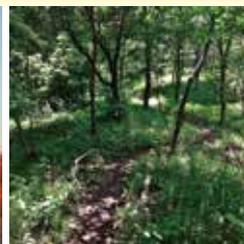
6月の終わりに環境活動交流会の中のイベントとして開催したフォトコンテスト。「調布の自然でこんな所もあったの？」というコンセプトで作品を募集しました。「「こんな所かな?」「これは昔の調布?」と思えるような写真もあり「調布の自然も捨てたものじゃない」と感じられた方も多いのではないだろうか?



大賞 霧の多摩川原橋 takayuki Yoshino



秋の多摩川夕景 多摩川を愛するオトコ



雑木林の小道 semoto



田んぼ takeroko



多摩川サンセット Yasuyuki Tokunaga



野川の桜 Tsuyoshi Yuasa



Chofu Airport Kiwamu Goto

こんな所もあったの？

都立農業高校神代農場

都立農業高校の実習地である神代農場は三鷹通り沿い、青渭神社の向かい側にあります①。ここは国分寺崖線の谷戸にあたる部分で門を入るとすぐ谷を見下ろせるような場所になっていきます②。中には湧水の池や養魚場③、そして田んぼがあります④。学校敷地のため原則木曜しか開門していません。今夏の酷暑にその驚くほどの涼しさを体感してみませんか。



公園3号地 児玉



佐須 春の雪 tomohiro yasuda



雪の朝深大寺自然広場にて semoto



④



③



②



①

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

9月までは毎月第3土曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。 ●8/18(土) 9:30～12:30 ●9/15(土) 9:30～12:30 両日共、保全作業

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。 ●8/11(土) 10:00～15:00 ●9/8(土) 10:00～15:00 作業場所が増えたため、当日午後までの活動とします。

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。 ●8/12(日) 9:30～12:00 ●9/9(日) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。 ●8月の活動はお休みです。 ●9/2(日) 9:30～12:00

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖線緑地で保全活動をしています。 ●8/26(日) 9:30～12:00 ●9/23(日) 9:30～12:00 栗拾い

先の5団体の保全活動問合せは 緑と公園課 042-481-7083

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所を募集中です。

◆地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)おぎもと内科クリニックなど。置き場所&応援カンパ募集中です!

◆会員募集! 年会費1000円/サポーター会員500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ環境市民会議)

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。◆